



Via Latina 22

2019年6月 281号

総本部よりのお知らせ－マリア会

新しい朗読奉仕者と祭壇奉仕者の選任（マリア会国際神学校）



左より（三列目）：Bro. Renny Markose, SM (IN), Fr. Francisco Canseco, SM (ES), 国際神学校校長,
Bro. Peter Heiskell, SM (US), Fr. André Fétis, SM (FR), マリア会総長, Fr. Pablo Rambaud, SM (ES), マリア会
生局長 と Bro. Lester Kaehler, SM (US), 国際神学校副校長.

（二列目）： Bro. Brandon Paluch, SM (US), Bro. Michael Chiuri, SM (US), Bro. David Kangwa, SM (EA) と
Bro. Santhosh Savarimuthu, SM (IN).

（一列目）： Fr. Antonio Gascón, SM (ES), マリア会資料室長・列聖請願総代理, Bro. Elie Oka, SM (IV),
Bro. Alejandro Borrella, SM (ES), Bro. Victor Ferreira de Aguiar, SM (ES-Brazil) と Bro. Cyprian Maingi, SM (EA).

5月29日（月）、ローマ・シャミナード国際神学校の5名の兄弟たちが朗読奉仕者に、4名が祭壇奉仕者に任命されました。新たな朗読奉仕者は、Alejandro Borella (ES), Victor Ferreira de Aguiar (ES),

David Kangwa (EA), Cyprian Maingi (EA),そしてSantosh Savarimuthu (IN)です。新たな祭壇奉仕者は、Michael Chiuri (USA), Renny Markose (IN), Elie Kouakou Oka (IV) そしてBrandon Paluch (USA)です。総長司式の選任式は、神学校共同体と総本部共同体と一緒に出席する恒例の月曜日夕方のミサ聖祭の中で行われ、式典は両共同体で祝われる兄弟的会食で終了しました。

これら二つの任務は、司祭職への途上にある各神学生にとって、その人生における神のみ言葉とミサ聖祭の役割をより深く自覚するようになる機会です。神学生たちが準備している職務(司祭職)は、彼らが神のみ言葉とミサという2つの現実を更に深く生きようとの呼びかけを当然のこととしています。彼らは特にキリスト者共同体の善に奉仕する精神を深めるよう招かれています。このことは、先ずは自分たちの共同体の兄弟たちへの奉仕から始まります。これら9名と、他の神学生のために祈りましょう。彼らがその共同体の兄弟たちへの奉仕の準備を継続しますように！ また彼らの養成者たちのためにも祈りましょう。

総長評議員会のアルゼンチンを訪問

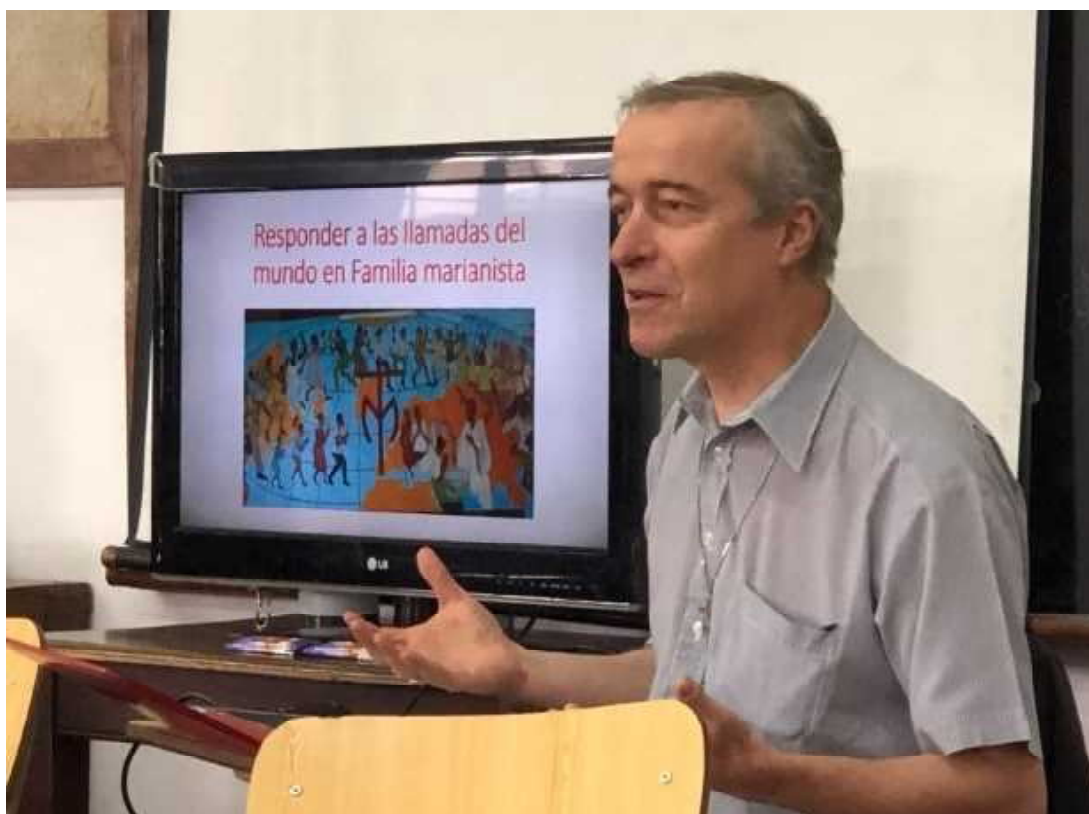


総長評議員会とFMI共同体 ブエノスアイレス修道院の新聖堂での初ミサ

ローマでご復活祭を祝った2日後、総長評議員会の4名のメンバーはこの地区を訪問するため、アルゼンチンのブエノスアイレスに向けて長時間の旅をいたしました。彼らは首都の共同体でマリア会修道者たちから歓迎され、そこから17日間の視察を開始しました。この地区には3つの共同体があり、そこには11名の修道者がいます。これらの修道者たちは、FMI修道女たちと奉獻した信徒たちと一緒に、4つの大きな学校、2つの小教区、そして幾つかの社会的な連帯活動を推進しています。4つの学校の2校はブエノスアイレスに在り、他はフニンとヌエベ・デ・フリオに在ります。ファチマの聖母教会

の小教区はブエノスアイレスのVilla Soldati地域で信者たちに奉仕していますが、この地域はブエノスアイレスの周辺に在る村で、多くの経済的、社会的問題を抱えています。この近くにマリアニストの世界における最も大きな学校の一つがあり、これもやはりファチマの聖母の名で呼ばれ、3000名以上の生徒を有しています。「復活のキリスト小教区」は南部のヘネラル・ロカ市に位置しており、数百平方キロに広がる16の異なる巡回教会が含まれています。これらの地域とその活動に於いて、多くの信徒マリアニスト共同体のメンバーの存在と協力は、一つの家族として生きている私たちマリアニストカリスマの恵みに対する生きた証しをしています。

ラテンアメリカ・ゾーンの他の行政単位と同様、アルゼンチンのマリア会は高齢化と修道者の不足という現実的な課題に直面しています。この地区の広範囲にわたる使徒的参加は可能です。それは、これまで指導的役割を引き受け、また、マリアニスト修道者たちと共に、これら全ての使徒的事業においてマリアニストのカリスマを受肉させようと懸命に働いている他の多くの協力者が存在するからです。総長評議員会はこれら全ての修道者と信徒の人たちから受けたあたたかい歓迎に感謝しました。私たちはこの地区の未来を聖母マリアに委ね、そして、彼らがアルゼンチンのマリア会の将来を揺るぎないものにするよう働くにあたり、聖霊が彼らの活動を導いてくださるよう祈ります。



総長アンドレ・フェティス師 世界の呼びかけに応えるマリアニスト家族について



両創立者と共に祝うフニン市の小学生

総長評議員会によるチリ地区訪問



総長評議員と地区長評議員

アルゼンチン地区訪問を終え、総長評議員会メンバーは次の訪問を始めるためにアンデス山脈を越え、チリのサンチアゴへの比較的短い旅をしました。前回の総本部によるチリ地区訪問は、2014年で

した。ヨーロッパでは春の気候になり始めたのに、南半球は着実に冬に向かっていました。それで、この訪問の間には、朝晩は零度近い冷え込みになることもあるでしょうが、心地よい穏やかな日々でした。

チリ地区には19名の会員がいます。それに加えて、コロンビア・エクアドル地区からの1人会員が、サンチアゴにあるラテンアメリカ修練院で修練長として奉仕しています。この地区の宣教活動は教育に重点的に取り組んでおり、5つの学校と新たなシャミナード研究施設を運営しています。4つの学校はサンチアゴ地域にあり、5番目の学校と研究施設は南に数時間のリナレスにあります。教育以外にも、この地区は様々な他の活動を行っており、2つの小教区と1つの大学生学生寮、および連帯の活動などがあります。サンチアゴには4つの共同体があり、リナレスにはもう一つの共同体があります。



リナレスのカサ・エスチュディオ・シャミナード

アルゼンチン同様、チリは限られた修道者で、広範囲にわたる使徒的活動を活性化させるようチャレンジを受けています。しかしアルゼンチン地区と同様、ここチリ地区も信徒と非常に効果的に協働しており、彼らはこの地区の教育事業を活性化することに直接携わっているシャミナード財団の会員です。

総長評議員会が観察して非常にありがたく思った一つの姿は、チリのマリアニスト家族の4つの枝すべてが相互に支え合っていることでした。信徒マリアニスト共同体、FMIメンバーそしてアリアンス・マリアルの幾人かのメンバーたちと一緒に、マリア会はマリアニスト家族を非常にはっきりとした姿で提示しています。評議員会は、すべて四つの枝が出席している今年の総会の精神に満ち溢れた幾つかの行事に参加して、うれしく思いました。

チリの私たちの兄弟のため、またマリアニスト家族全てのメンバーのために祈りましょう！



カサ・エスチュディオ・シャミナード
小学校の年少者・年長者生徒

マリア会列福・列聖請願総代理の活動

法王庁列福・列聖省は、最近、50周年を迎えました。第2バチカン公会議後の教会刷新の精神で、聖パウロ6世教皇がこの省を設置しました。使徒憲章：*Sacra Rituum Congregatio (8-V-1969)*において、彼は典礼省と新たな列福・列聖省を創設しました。元々、これら2つの省は礼部省の一部でしたが、彼はこの新たに生まれた省の機能を3つの部門に分割しました：列福・列聖省長官の指導下にある**法的部門**、証聖官（通称：悪魔の弁護人）が議長を務める**神学部門**、そして総報告官（列福・列聖のために必要な資料を集める総責任者）の指導下にある**歴史的部門**です。聖ヨハネ・パウロ2世教皇は2つの教書を公布し列聖省の機能をより解りやすくしました。これら教書は、使徒憲章：*Divinus Perfectionis Magister (25-1-1983)*と、*Normae Servandae in inquisitionibus ab Episcopis (7-11-1983)*です。これら教書において、教皇は列聖調査のプロセスに大きな改革を引き起こしました。教皇は、歴史的・神学的性格の基準に基づくプロセスを用いて、教皇庁の部門別の統治法のもつ法的、係争的構造を克服しました。

この教皇たちの改革は、列聖省が教会の息子と娘たちの中にある聖性の広い枠組を知らせる助けとなりました。この改革はまた、列聖された聖性を重要な司牧的、福音宣教的な手段とします。

5月8日、列聖省設置50周年を記念するため、バチカンの聖ペトロ大聖堂の祭壇で荘厳な式典が行われました。この式典の司式者は教皇庁長官、Angelo Becciu枢機卿でした。枢機卿に加え、20名の司教、120名の司祭、そして多くの信徒がこの式典に出席しました。多くの信徒の中には、列聖省の役人と従業員がいました。更に、様々な修道会からの列聖請願者と彼らの友人たちが出席していました。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆



5月14日の*Sala Stampa della Santa Sede* (ホーリーシープレスオフィス) 告示と5月15日の*l'Osservatore Romano*に、重要なニュースが載せられました。この内容は「列聖省の教令発布」と言う表題の下に出されました。このニュース内容は、5月13日に教皇フランシスが列聖省長官、Angelo Becciu枢機卿に対して“神の僕Domingo Lázaro Castroの英雄的徳”について教令を発布する認可を与えた、と述べていました。

Domingo Lázaro師はマリア会の修道司祭でした。彼は1877年5月10日スペイン、サン・アドリアン・デ・ファロスにて生まれ、1935年2月22日スペイン、マドリードで帰天しました。この教皇の認可をもって、Domingo師の列聖プロセスの最初のステップは達成されました。この最初のステップはDomingo師の聖性と徳への名声に関するものです。若者たちの教育者として、また福音宣教者としての彼の私たちへの証しは、若者たちへの私たちの司牧活動において大きな価値をもつものとなるでしょう。



5月15日水曜日に、ローマのグレゴリアン大学で最近出版された書籍に関する会議が行われました。この書籍の表題は：「**1933-1944国家社会主義に直面した東欧、中欧のカトリック教会**」。この書籍の発行所はペロナの出版会社Gabrieli Editoriです。出版年は2019年です。この学問的な発表のモデレーターはイエズス会Marek Inglot師でした。この会議の出席者の中に名誉列聖省長官、Angelo Amato枢機卿とこのプロジェクトの調整役のJan Mikrut教授がいました。



950ページに及ぶこの大著は、Amato枢機卿が断言したように、真の“20世紀の殉教”です。この本は全ての社会層の殉教者とカトリック信者の名前を集めています。この本に含まれている名前はあらゆる教會的、文化的生活の分野から来ています。更に、この本は男女、および様々な老若の年齢層を含んでいます。この本は邪悪なナチスの大量殺戮と中欧と東欧の国々での反キリスト教的態度の全ての犠牲者の一覧表となっています。この雲のようなキリストへの証し人の中にJakob Gapp師の殉教が含まれており、彼の名前と短い伝記がページ135と161に取り上げられています。Josef Levit師の研究調査がGapp師に関する記事の源泉となっています。

FMI総長Sr. Franca Zonta、UISGの副議長に選出される



教皇フランシスコとの会合に参加するSr. Franca Zonta, FMI (右)

5月6日から10日にかけてローマで開催された総会で、総長国際連盟（UISG）はその新たな指導部を選出しました。これら選ばれた人たちの中にFMI総長、シスターFranca Zontaがおり、彼女は副議長に選出されました。UISGは1800を超える女子修道会をメンバーとしています。この総会の終わりに、指導部に選出された総長たちは教皇フランシスコと面会する機会を得ました。マリア会を代表して、私たちはシスターFrancaにお祝いを申し上げ、そしてこの重要な教会の奉仕のため私たちの祈りを捧げます。

若者たちへの総会へのメッセージ - 英語版



2018年7月の第35回総会の代議員たちは、総会の公式文書とともに、3つの特別メッセージを発表しました。これらメッセージの一つは“若者たちへのメッセージ”であり、テキストの形式で書かれていますが、総会は、このメッセージを若者たちが受け入れやすいようにしてくれる他のメディアの助

けを活用して行うよう要請しました。こうして、それぞれ異なる言語グループはこのメッセージの伝播を創意ある方法で、またこのメッセージをそれぞれの国の若者たちへ伝えられるようにして、責任をもって準備を任されました。

アメリカ管区はデイトン大学の通信部の協力を通して、このメッセージの英語版を完成させました。それはビデオで、アメリカ管区のホームページで読むことができます。私たちはこれに協力頂いた全ての方々に感謝します。そして英語圏の皆さんにこのメッセージを知らせるのを助けをくださるようお願いいたします。

最近の総本部通信

- 訃報：16号～17号

総本部日程

- 6月2日～6月11日：マリア会教育局長、Max Magnan士がニューヨークでのカトリック教育国際機構の世界会議に出席します。

メールアドレス変更

- Thomas Farnsworth士 (US): thomasfarnsworth1965@gmail.com